

研修カリキュラム表（介護職員初任者研修課程）

事業者名：特定非営利活動法人快生教学会

※実施内容については、要綱別紙2「介護員養成研修における目標、評価の指針」（介護職員初任者研修課程）を網羅すること。

研修カリキュラム（要綱別紙1）		実施計画				
講義・演習（実習）		カリキュラム名・時間数				実施内容
1 職務の理解	6時間	時間数	うち 通学	うち 通信	1 職務の理解	
(1) 多様なサービスの理解		1	1	/	(1) 研修に先立ち、介護および介護職についての素地の形成を促すとともに、多様なサービスの理解を促す。	
(2) 介護職の仕事内容や働く現場の理解		5	5	/	(2) 介護職の仕事内容や働く現場について、理解を促す。	
2 介護における尊厳の保持・自立支援	9時間	時間数	うち 通学	うち 通信	2 介護における尊厳の保持・自立支援	
(1) 人権と尊厳を支える介護		6	6	/	(1) 介護における人権や尊厳の保持、虐待等について、具体事例を取り入れながら理解を促す。	
(2) 自立に向けた介護		3	3	/	(2) 専門職としての自立支援・介護予防の基本的視点について、具体事例を取り入れながら理解を促す。	
3 介護の基本	6時間	時間数	うち 通学	うち 通信	3 介護の基本	
(1) 介護職の役割、専門性と多職種との連携		2	2	/	(1) 介護職に求められる専門性と異なる専門性の多職種について理解を促す。	
(2) 介護職の職業倫理		1	1	/	(2) 介護職に求められる職業倫理の必要性について、気づきと理解を促す。	
(3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント		1.5	1.5	/	(3) 介護における重要なリスクについて、その他予防や対策についての理解を促す。	
(4) 介護職の安全		1.5	1.5	/	(4) 介護職における心身の健康障害およびその管理や予防について、理解を促す。	

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 9時間	
(1) 介護保険制度	
(2) 医療との連携とリハビリテーション	
(3) 障害者福祉制度及びその他制度	
5 介護におけるコミュニケーション技術 6時間	
(1) 介護におけるコミュニケーション	
(2) 介護におけるチームのコミュニケーション	
6 老化の理解 6時間	
(1) 老化に伴うところとからだの変化と日常	
(2) 高齢者と健康	
7 認知症の理解 6時間	
(1) 認知症を取り巻く状況	
(2) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	
(3) 認知症に伴うところとからだの変化と日常生活	
(4) 家族への支援	

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携	時間数	うち 通学	うち 通信	4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携
(1) 介護保険制度	4	4	/	(1) 介護保険制度に関する理解を促す。
(2) 医療との連携とリハビリテーション	2	2	/	(2) 医療との連携とリハビリテーションの理念と考え方について理解を促す。
(3) 障害者福祉制度およびその他の制度	3	3	/	(3) 障害者福祉制度およびその他の制度に関する理解を促す。
5 介護におけるコミュニケーション技術	時間数	うち 通学	うち 通信	5 介護におけるコミュニケーション技術
(1) 介護におけるコミュニケーション	4	4	/	(1) 介護におけるコミュニケーションの重要性と利用者の状況に応じたコミュニケーション技術について、気づきと理解を促す。
(2) 介護におけるチームのコミュニケーション	2	2	/	(2) チームケアにおけるコミュニケーションの有効性・重要性を理解するとともに、記録の機能と重要性について気づきを促す。
6 老化の理解	時間数	うち 通学	うち 通信	6 老化の理解
(1) 老年期の発達と老化にともなう心身の変化の特徴	3	3	/	(1) 老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴について理解を促す。
(2) 高齢者と健康	3	3	/	(2) 高齢者に多い病気と生活上の留意点等について、具体例を交えながら理解を促す。
7 認知症の理解	時間数	うち 通学	うち 通信	7 認知症の理解
(1) 認知症を取り巻く環境	1	1	/	(1) 認知症ケアの理念・視点等について理解を促す。
(2) 医学的側面からみた認知症の基礎と健康管理	2	2	/	(2) 医学的側面からみた認知症の基礎と健康管理について、理解を促す。
(3) 認知症にともなうところとからだの変化と日常生活	2	2	/	(3) 認知症に伴うところとからだの変化と日常生活について、理解を促す。
(4) 家族への支援	1	1	/	(4) 家族の気持ちや、家族がうけやすいストレス等について理解し、レスパイトの重要性への気づきを促す。

8 障がいの理解		3時間
(1) 障がいの基礎的理解		
(2) 障がいの医学的側面、生活障がい、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識		
(3) 家族の心理、かかわり支援の理解		
9 ころとからだのしくみと生活支援技術		7.5時間
ア 基本知識の学習		10~13時間
(1) 介護の基本的な考え方		
(2) 介護に関するころのしくみの基礎的理解		
(3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解		
イ 生活支援技術の講義・演習		50~55時間
(4) 生活と家事		
(5) 快適な居住環境整備と介護		
(6) 整容に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護		
(7) 移動・移乗に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護		
(8) 食事に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護		

8 障がいの理解	時間数	うち通学	うち通信
(1) 障害の基礎的理解	0.5	0.5	/
(2) 障害の医学的側面、生活障害などの基礎知識	2	2	/
(3) 家族の心理、かかわり支援の理解	0.5	0.5	/
9 ころとからだのしくみと生活支援技術			
ア 基本知識の学習	時間数	うち通学	うち通信
(1) 介護の基本的な考え方	3	3	/
(2) 介護に関するころのしくみの基礎的理解	3	3	/
(3) 介護に関するからだのしくみの基礎知識	6	6	/
イ 生活支援技術の講義・演習	時間数	うち通学	うち通信
(4) 生活と家事	6	6	/
(5) 快適な居住環境整備と介護	3	3	/
(6) 整容に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護	5	5	/
(7) 移動・移乗に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護	10	10	/
(8) 食事に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護	6	6	/

8 障がいの理解	
(1) 障害の概念とICF、障がい者福祉の基本的な考え方についての理解を促す。	
(2) 障害の医学的側面、生活障害などの基礎的知識について理解を促す。	
(3) 家族の心理、かかわり支援、介護負担の軽減等の理解を促す。	
9 ころとからだのしくみと生活支援技術	
ア 基本知識の学習	
(1) 介護の基本的な考え方について理解を促す。	
(2) 介護に関するころのしくみの基礎的理解について促す。	
(3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解について促す。	
イ 生活支援技術の講義・演習	
(4) 家事と生活、家事援助に関する基礎知識と生活支援について理解を促す。	
(5) 快適な居住環境整備に関する基礎知識、生活空間と介護についての理解を促す。	
(6) 整容の必要性と、整容に関連するころとからだのしくみと自立に向けた介護について、演習を交えて理解を促す。	
(7) 移動・移乗の必要性と、移動・移乗に関連するころとからだのしくみと自立に向けた介護について、演習を交えて理解を促す。	
(8) 食事の必要性と、食事に関連するころとからだのしくみと自立に向けた介護について、演習を交えて理解を促す。	

第1-2号様式

(9)入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	(9) 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	8	8		(9) 入浴・清潔保持がもたらす心身への効果と、入浴に関連するところとからだのしくみと自立に向けた介護について、演習を交えて理解を促す。
(10)排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	(10) 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6	6		(10) 排泄の必要性と、排泄に関連するところとからだのしくみと自立に向けた介護について、演習を交えて理解を促す。
(11)睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	(11) 睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	4	4		(11) 睡眠の必要性と、睡眠に関連するところとからだのしくみと自立に向けた介護について、演習を交えて理解を促す。
(12)死にゆく人に関するところとからだのしくみと終末期介護	(12) 死にゆく人に関するところとからだのしくみと終末期介護	3	3		(12) 死にゆく人に関するところとからだのしくみと終末期介護について、必要に応じて演習を交えて理解を促す。
ウ 生活支援技術演習 10～12時間	ウ 生活支援技術演習	時間数	うち通学	うち通信	ウ 生活支援技術演習
(13)介護過程の基礎的理解	(13) 介護過程の基礎的理解	4	4		(13) 介護過程の目的・意義・展開プロセスと、チームアプローチにおける介護職の役割と専門性について理解を促す。
(14)総合生活支援技術演習	(14) 総合生活支援技術演習	8	8		(14) 総合生活支援技術について、事例を通じて演習を行う。
10 振り返り 4時間	10 振り返り	時間数	うち通学	うち通信	10 振り返り
(1)振り返り	(1) 振り返り	2	2		(1) 研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行う。
(2)就業への備えと研修修了後における継続的な研修	(2) 就業への備えと研修修了後における継続的な研修	2	2		(2) 就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる。
追加カリキュラム					
計 (130時間)	計 (130時間)				

※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。

※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。

※ 時間配分の下限は、30分単位とする。

※ 項目ごとに時間数を設定すること。

※ 実施内容には、講義内容、演習の実施方法、通信学習課題の概要等を記載すること。（別紙でも可）

※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。